

ス リ ム ダ ク ト P D

施工要領書

2 0 2 2 年 2 月 1 6 日

因幡電機産業株式会社
技術開発統括部

目次	ページ
1. はじめにお読みください	2
2. PD システム施工要領	3
2-1. PD システム収納能力目安および工法別最大支持ピッチ	3
2-2. PD システム施工手順	4
2-3. 分岐継手カバー(PDJTN)の施工手順	8
2-4. 切り欠き補強部材(PDK) の施工手順	11
2-5. ウォールプレート(PSP)の施工手順	13
2-6. ダクト支持バンド(PDY) の施工手順	14
2-7. ダクト固定バンド (PDU) の施工手順	15
2-8. PDSD 変換継手(PSDR) の施工手順	16
2-9. 異径アダプター(PDI) の施工手順	17
2-10. ブラケット固定ジョイント(PDBK)の施工手順	18

1. はじめにお読みください

本製品は、配管用化粧カバーです。それ以外の用途には使用しないでください。

【お願い】

- 使用の前に本書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- スリムダクト PD は防水構造ではありません。壁貫通箇所など、必要箇所にはコーキング処理やパテ埋めなどを施し、防水処理を行ってください。
- ダクト表面温度が -20℃～60℃ の範囲内の環境下で保管・使用ください。60℃を超える場合は熱による変形のおそれがあります。詳しくは、下記「スリムダクト PD 熱変形について」を参照してください。
- スリムダクト PD の施工作业時は防護服、作業手袋などを着用してください。また、のこぎりなどを使用して切断作業する場合は切粉が目に入らないように保護メガネなどを着用してください。
- インパクトドライバーを使用の際には、取り扱いに十分留意してください。製品を損なう場合があります（トルクドライバーを使用することをお薦めします）。
- ステンレスはサビにくい材質ですが、塩害地域や異種金属との接触、ならびに強酸性下でも発錆するおそれがありますので注意してください。
- 冬場など気温の低い時期は、ダクト切断時にダクトが割れるおそれがありますので、ダクトを温めてから切断してください。

■ スリムダクト PD 熱変形について

(1) 熱変形とは

スリムダクト PD は樹脂製であり、ダクトの表面温度が 60℃を超えると変形するおそれがあります。

とくに、負荷が掛かっている状態では、それよりも低い温度で変形することがあります。

(2) ダクトの温度について

ダクトの温度は、環境温度および直射日光による輻射熱などにより決まります。

とくに、ダクト付近に金属製のフードなどがあると太陽光の輻射熱を受けてダクトが高温になることがあります。

(3) 注意点

● 保管上の注意点

炎天下の密閉された車中など雰囲気温度が高くなる場所での保管は避けてください。
また、製品に負荷が掛かった状態での保管は避けてください。

● 設置場所の注意点

- ・金属材料で加工された軒先など輻射熱によりダクトが高温になることが予想される近辺での設置は避けてください。
- ・蓄熱する壁や遮熱塗料で塗装した壁では、輻射熱によりダクトが高温になることが予想されますので設置は避けてください。
- ・風通しの悪い狭い場所や、熱が発生する設備の周りでは、高温になることが予想されますので設置は避けてください。

上記注意事項を遵守されていない熱変形クレームにつきましては、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

2. PD システム施工要領

2-1. PD システム収納能力目安および工法別最大支持ピッチ

(1) 収納能力目安^{※2}

PD-90：配管バンド 80A 以下に対応

PD-120：配管バンド 100A 以下に対応

PD-140：配管バンド 125A 以下に対応

表－2 ダクトサイズと収納可能被覆銅管サイズの目安表 (単位: mm)

ダクトサイズ	適合配管バンド (銅管用 ^{※1})	最大銅管サイズ (液管×ガス管)		
		保温材厚 10×10 の場合	保温材厚 10×20 の場合	保温材厚 20×20 の場合
PD-90	80A 以下	15.88×28.58	9.52×19.05	—
PD-120	100A 以下	19.05×38.10	19.05×31.75	9.52×19.05
PD-140	125A 以下	25.40×53.98 19.05×31.75 (2 系統)	22.22×44.45	19.05×31.75

※1 塩ビ管用なども使用できます。ただし、銅管用より外径が小さいサイズに限ります。

※2 切り欠き補強部材 (PDK) を使用する場合には、「**2-4.切り欠き補強部材 (PDK) の施工手順**」(P11)、ダクト支持バンド (PDY) を使用する場合には、「**2-6.ダクト支持バンド (PDY) の施工手順**」(P14) を確認してください。

(2) 工法別最大支持ピッチ

表－3 工法別最大支持ピッチ (単位: mm)

	縦引き配管	横引き配管	天吊り配管
固定ジョイント (PDB-N) 使用時	1500	1000	1000
ブラケット固定ジョイント (PDBK) 使用時	1500	1500	—
ダクト支持バンド (PDY) 使用時 [※]	1500	1000	1000
ダクト固定バンド (PDU) 使用時 [※]	—	1000	—

※ ダクト 1 本あたり 2 箇所以上での支持が必要です。

2-2. PD システム施工手順

(1) 配管支持金具の設置

配管経路に沿って、表－5 に示す支持ピッチでT字足、ブラケットなどを設置します。

表－5 支持ピッチ (単位：mm)

縦引き配管※1			1500
横引き配管※2			1500
A※3	PD-90		112
	PD-120		128
	PD-140		147

※1 固定ジョイント (PDB-N) 使用時

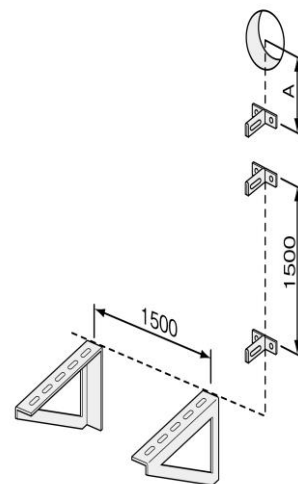
※2 ブラケット固定ジョイント (PDBK) 使用時

※3 コーナー90° (PDE) +継手背面固定金具 (PDH)

+ウォールプレート (PWP-N) 使用時

注意)・ダクト支持バンド (PDY) を使用する場合は、「2-6. ダクト支持バンド (PDY) の施工手順」(P14)を確認してください。

・ダクト固定バンド (PDU) を使用する場合は、「2-7. ダクト固定バンド (PDU) の施工手順」(P15)を確認してください。



◎配管支持金具の選定目安

壁面からの浮かし高さに応じて 表－6 より T字足を選定してください。

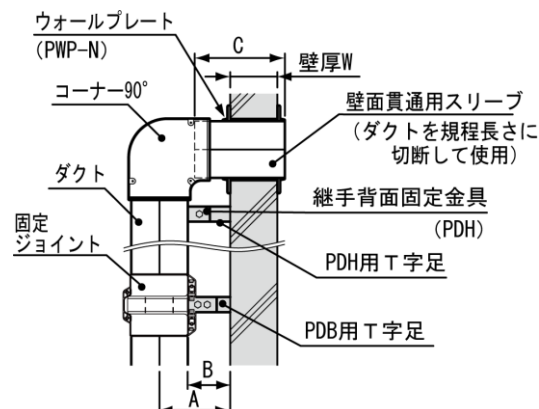
表－6 T字足選定表

(単位：mm)

配管支持金具組み合わせ			PD ダクト施工状態			
配管バンド (鋼管用※)	T 字足		PD ダクト サイズ	中心高さ A	浮かし高さ B	スリーブ長さ C
	固定ジョイント (PDB) 用	継手背面固定金具 (PDH) 用				
80A	60	50	PD-90	106	60	64+壁厚 W
	80	60		126	80	84+壁厚 W
	100	80		146	100	104+壁厚 W
100A	60	50	PD-120	120	60	61+壁厚 W
	80	60		140	80	81+壁厚 W
	100	80		160	100	101+壁厚 W
125A	60	50	PD-140	131	60	61+壁厚 W
	80	60		151	80	81+壁厚 W
	100	80		171	100	101+壁厚 W

※ 塩ビ管用なども使用できます。ただし、鋼管用より外径が小さいサイズに限ります。

注意) コーナーパーツ接続用のウォールプレート (PSP) を使用して、PD ダクトの壁面からの浮かし高さを更に低く施工する場合は、「2-5. ウォールプレート (PSP) の施工手順」(P13)を確認してください。

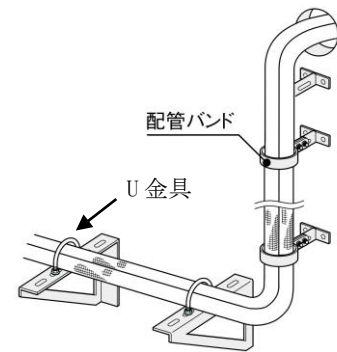


(2) 配管の設置

配管バンドで配管を固定しながら、設置していきます。

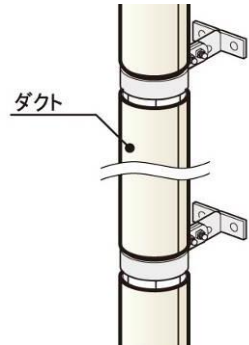
※ この時点では、継手固定金具(PDL)／継手背面固定金具(PDH)は取り付けません。

※ U金具の取り付けについては、「**2-10. ブラケット固定ジョイ(PDBK)の施工手順**」(P18)を確認してください。



(3) ダクトの取り付け

配管バンドに適合したサイズのダクトを表-7 から選定し、支持ピッチに適合した長さのダクト（必要に応じて金切のこぎりなどでダクトを切断してください。表-8 参照）を施工します。



(継手間のダクトの切断については、表-9 を確認してください)

表-7 ダクトサイズ

配管バンド (鋼管用)	ダクトサイズ
80A	PD-90
100A	PD-120
125A	PD-140

注意) 切り欠き補強部材 (PDK) を使用する場合については、「**2-4. 切り欠き補強部材(PDK)の施工手順**」(P11)、ダクト支持バンド (PDY) を使用する場合については、「**2-6. ダクト支持バンド (PDY)の施工手順**」(P14)を確認してください。

表-8 切断後のダクト長さ例 (配管バンド使用時) (単位: mm)

支持ピッチ P	ダクト長さL		
	配管バンド幅 W=25	配管バンド幅 W=32	配管バンド幅 W=38
1000	965~975	958~968	952~962
1500	1465~1475	1458~1468	1452~1462

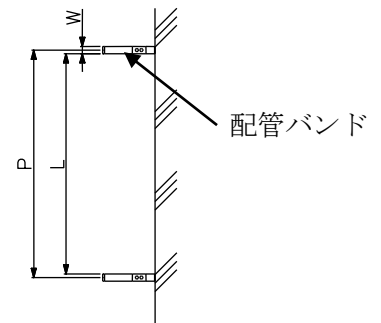


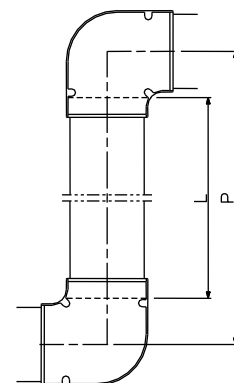
表-9 切断後のダクト長さ例 (継手使用時) (単位: mm)

支持ピッチ P	ダクト長さL		
	ダクトサイズ PD-90	ダクトサイズ PD-120	ダクトサイズ PD-140
1000	874~884	840~850	818~828
1500	1374~1384	1340~1350	1318~1328

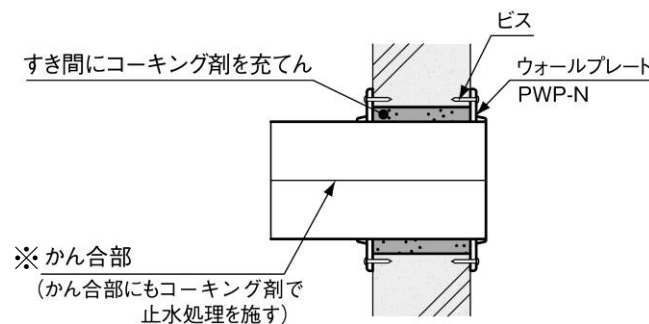
PD-90 の場合: ダクト長さ L=支持ピッチ P-126~116

PD-120 の場合: ダクト長さ L=支持ピッチ P-160~150

PD-140 の場合: ダクト長さ L=支持ピッチ P-182~172



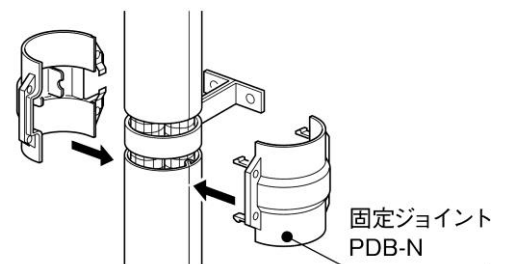
- (4) スリーブの壁面取り付け、止水処理およびウォールプレート (PWP-N) の取り付け
 壁面貫通穴にスリーブ (ダクトを規定長に切断したもの) を貫通させ、コーキング剤を
 すき間に充てんし、スリーブを壁面に固定すると同時に止水処理を施します。
また、スリーブのカン合部※から雨水侵入のおそれがある場合は、カン合部にもコーキ
 ング剤で止水処理を施してください。
 コーキング剤が硬化する前に、両側の壁にウォールプレート (PWP-N) をビス固定しま
 す。



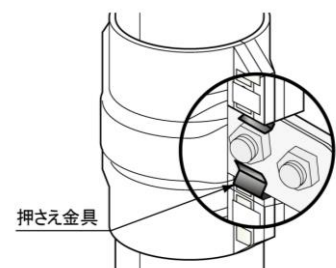
(5) 固定ジョイント (PDB-N) の取り付け

- ① 配管バンドに固定ジョイント (PDB-N) を取り付けて下さい。

固定ジョイント (PDB-N) はベースとカバー
 が仮固定できる構造になっています。



- ② 固定ジョイント (PDB-N) の押さえ金具が配管バンド
 のボルト、ナットに当たらないよう、配管バンドの
 中心位置に合わせて取り付けてください。

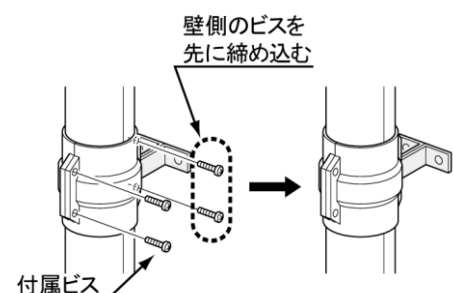


- ③ 付属のビス※を締め込み、しっかりとダクトを
 固定してください。

※ 付属ビス : M3.5×20 (カバーに仮止め)

注意) 付属のビスを締め込む際は、壁側から先に
 締め込んでください。

反対側のビスを締め込んだ後で、壁側のビスを
 締め込すぎた場合は、ネジ山が潰れる可能性があ
 ります。



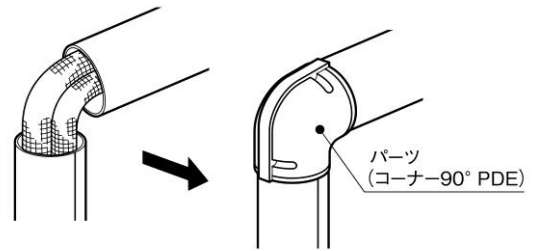
(6) ブラケット固定ジョイント(PDBK) の取り付け

「2-10. ブラケット固定ジョイント(PDBK) の施工要領」(P18)を確認してください。

(7) パーツの取り付け

ダクトにパーツを取り付けます。
付属のビス※を締め込み、しっかりとダクトを
固定してください。

※ 付属ビス：M3.5×20（カバーに仮止め）



(8) 継手背面固定金具の取り付け

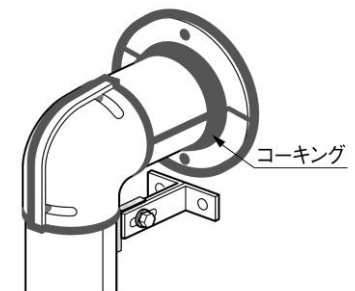
パーツとダクトのすき間に継手背面固定金具を差し込みます。
継手背面固定金具が外れないよう、最後までしっかりと
差し込んでください。
その後、継手背面固定金具を、あらかじめ設置しておいた
T字足などを取り付け、壁面に固定してください。



(9) コーキング処理

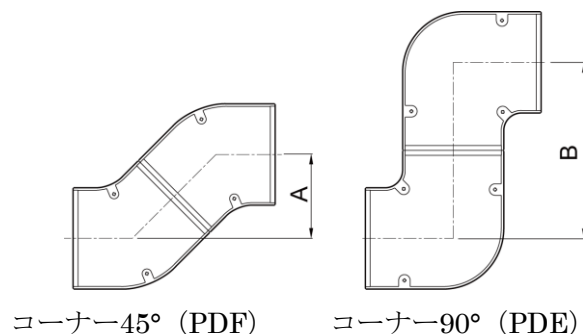
右図に示す位置のコーキング処理を怠りますと
屋内への雨水侵入の原因となりますので留意してください。

注意) スリムダクト PD シリーズは防水構造ではありません。
防水処理が必要な場合には接続部やカン合部など
必要箇所にはコーキング処理を施してください。



〈参考〉コーナー仕上がり寸法

コーナー45° (PDF)、コーナー90° (PDE) を 2 個組み合わせた場合の仕上がり寸法
を 表-10 に示します。



コーナー45° (PDF)

コーナー90° (PDE)

表-10 コーナー仕上がり寸法 (単位：mm)

サイズ	コーナー45° (PDF) A 寸法	コーナー90° (PDE) B 寸法
PDF / PDE - 90	86	180
PDF / PDE - 120	93	213
PDF / PDE - 140	112	251

※ 施工の際にはダクトの短尺を間に入れる必要があります。

2・3. 分岐継手カバー(PDJTN)の施工手順

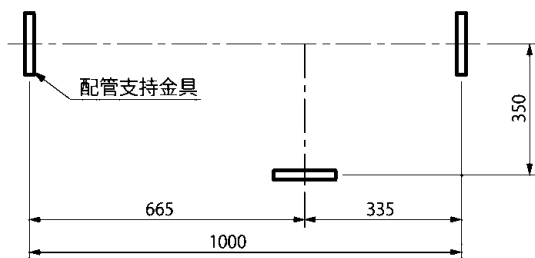
<用途>

分岐管継手を収納する場合に使用するものです。

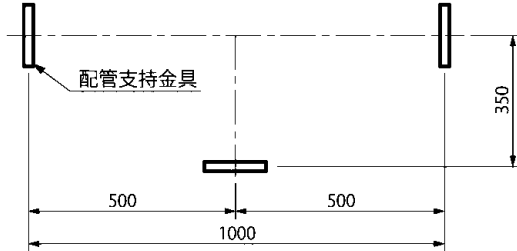
(1) 配管支持金具の設置

分岐継手のサイズによっては、ソケットジョイントを使用せずに施工することが可能です。

【ソケットジョイントを使用する場合】

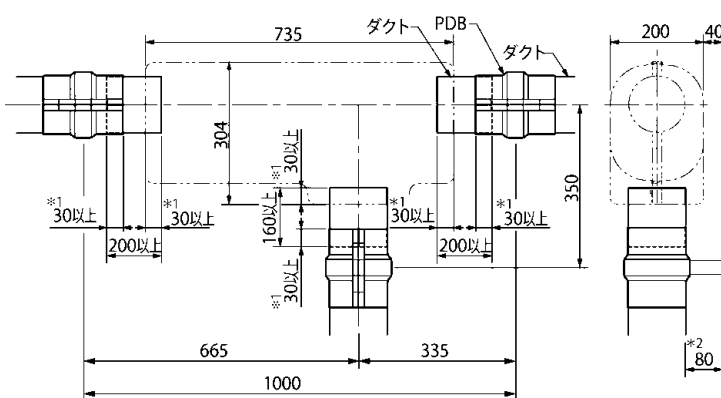


【ソケットジョイントを使用しない場合】

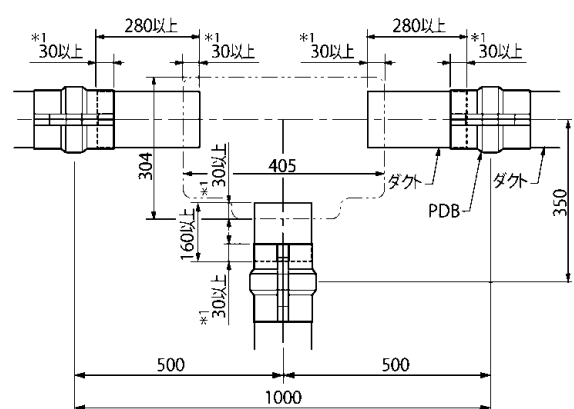


(2) ダクトの取り付け

【ソケットジョイントを使用する場合】



【ソケットジョイントを使用しない場合】



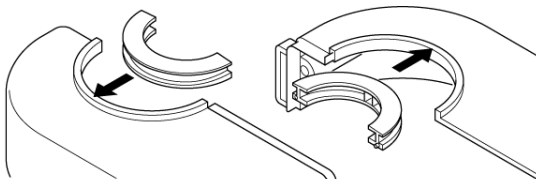
注) ※1 パーツへのダクトの差し込みシロは 30mm 以上 としてください。

※2 壁面からのダクトの浮かし高さは、80mm 以上 としてください。

壁面との距離が近すぎると、PD 分岐継手カバーを取り付けできないおそれがあります。

(3) アダプターの取り付け

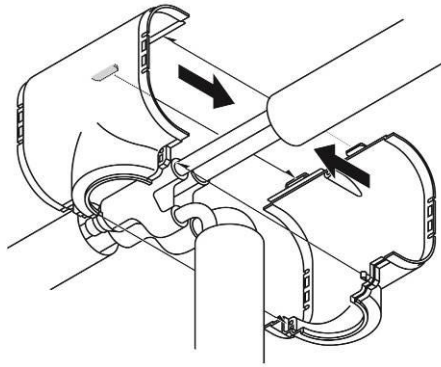
PD-90/120 ダクトに接続する場合、付属のアダプターを口元の円弧部にセットしてください。



- ・アダプターのツメをカン合させてください。
- ・PD-140 ダクトと接続する場合には、アダプターは不要です。

(4) T型ジョイントの取り付け

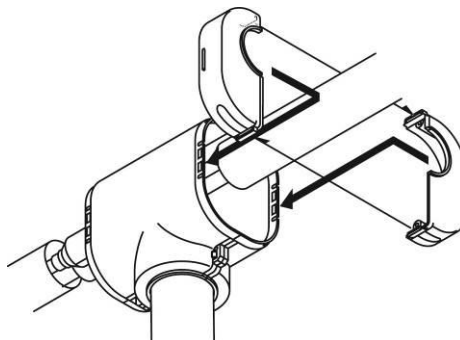
T型ジョイントのベースとカバーを仮止めします。(4箇所)



(5) 端末カバーの取り付け

端末カバーのベースとカバーを仮止めします。(2箇所)

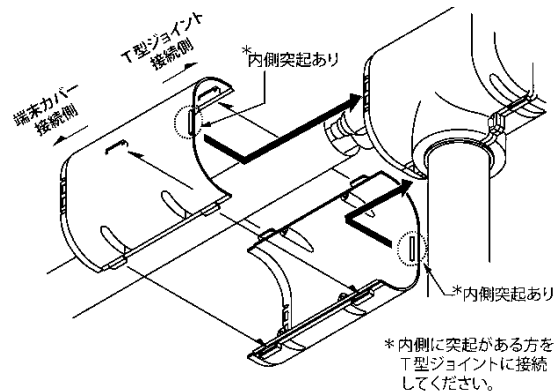
端末カバーをスライドさせてT型ジョイントに取り付けます。



(6) ソケットジョイントの取り付け

ソケットジョイントのベースとカバーを仮止めします。(4箇所)

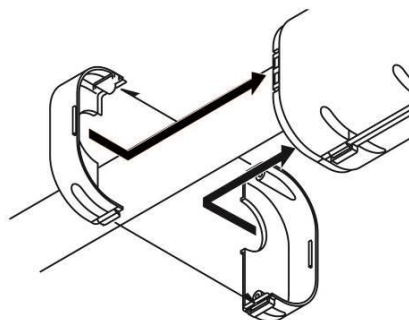
ソケットジョイントをスライドさせてT型ジョイントに取り付けます。



(7) 端末カバーの取り付け

(5)と同様に端末カバーを仮止めします。(2箇所)

端末カバーをスライドさせてソケットジョイントに取り付けます。

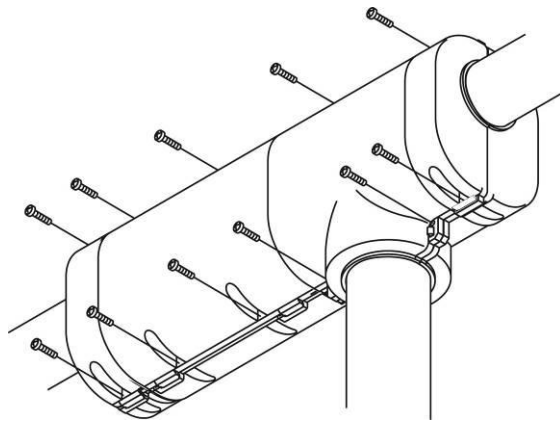


(8) パーツのビス止め

落下防止のために必ずビス止めをしてください。

注) ネジを締め込み過ぎないようにしてください。締め込み過ぎた場合には、ネジ穴がつぶれるおそれがあります。

【ソケットジョイントを使用する場合】

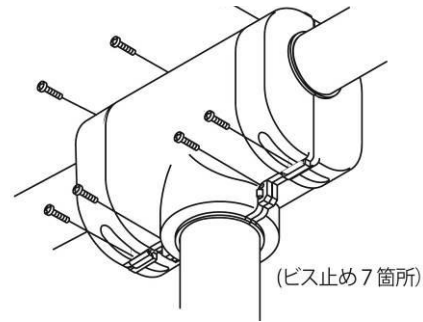


(ビス止め 11 箇所)

【ソケットジョイントを使用しない場合】

ソケットジョイントを使用しなくても施工できます。

(ソケットジョイントは分岐接手の長さに応じて使用してください。)

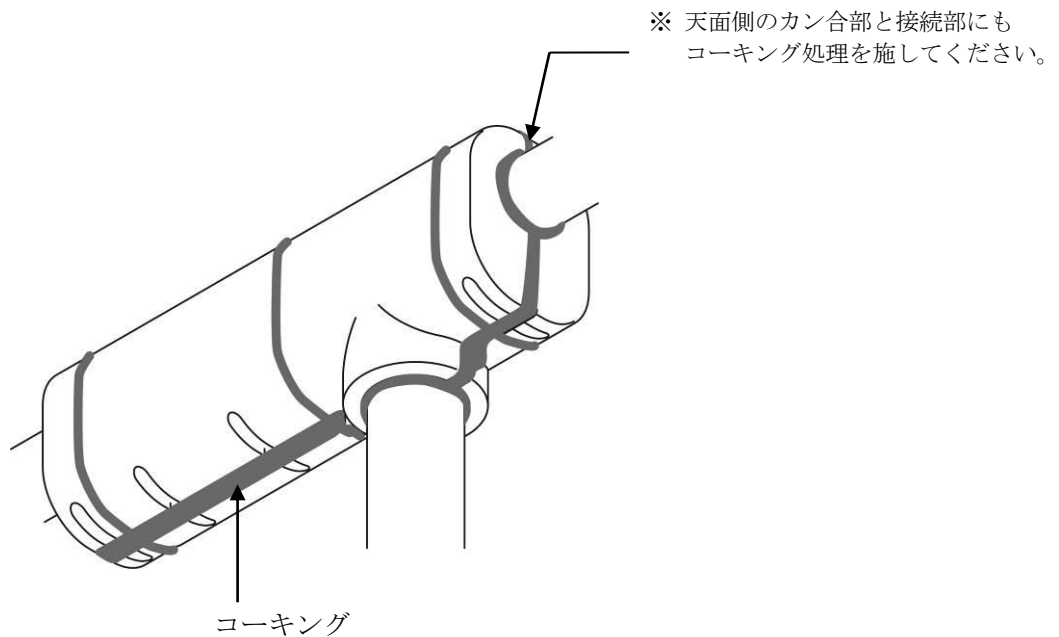


(ビス止め 7 箇所)

(9) コーキング処理

PD 分岐継手カバーは防水構造ではありません。

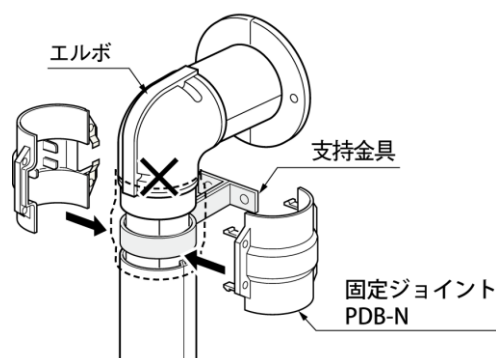
防水処理が必要な場合は、接続部やカン合部など必要箇所にコーキング処理を施してください。



2・4．切り欠き補強部材(PDK)の施工手順

<用途>

支持金具がエルボに近く、固定ジョイント（PDB-N）が使用できない場合に切り欠き補強部材を使用して施工してください。



例) 固定ジョイント（PDB-N）の上部がエルボと干渉するため、固定ジョイント（PDB-N）が使用できない。

(1) 配管バンドの選定

切り欠き補強部材を使用する場合は、表－１１に示す以下の適合配管バンドを使用してください。

表－１１ 適合配管バンドと収納可能被覆銅管サイズの見当表 (単位:mm)

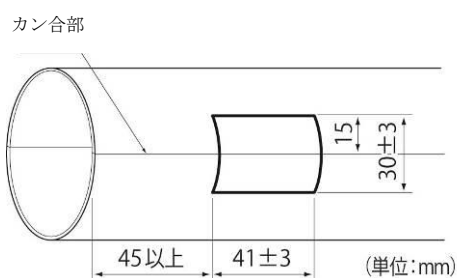
ダクトサイズ	適合配管バンド (鋼管用※)	最大銅管サイズ (液管×ガス管)		
		保温材厚 10×10 の場合	保温材厚 10×20 の場合	保温材厚 20×20 の場合
PD-90	50A 以下	9.52×15.88	—	—
PD-120	80A 以下	15.88×28.58	9.52×19.05	—
PD-140	100A 以下	19.05×38.10	19.05×31.75	9.52×19.05

※ 塩ビ管用なども使用できます。ただし、鋼管用より外径が小さいサイズに限ります。

(2) ダクトにカットラインを引く

ダクトに切り欠き加工用のラインを引いてください。

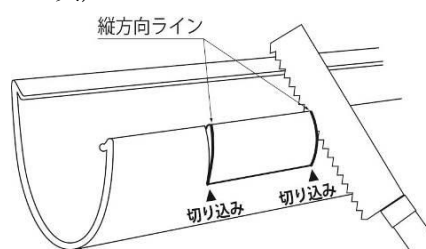
注意) ダクトのカン合部をセンターにして、指示寸法を守ってラインを引いてください。



(3) ダクトに切り込みをいれる

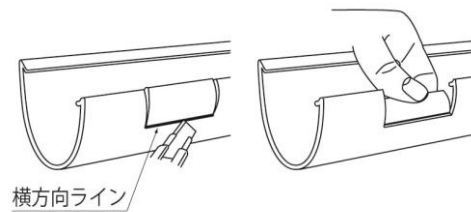
縦方向のラインに沿って金切のこぎりで切り込みをいれてください。

(ダクトのベース、カバー共)



(4) ダクトの折り取り

横方向のラインに沿ってカッターナイフで筋を入れ、ダクトを折り取ってください。

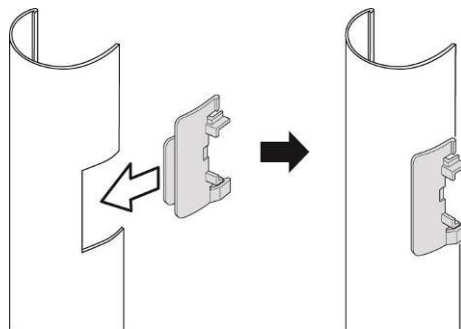


(注意)カッターナイフでケガをしないように注意してください。

(5) 切り欠き補強部材の取り付け

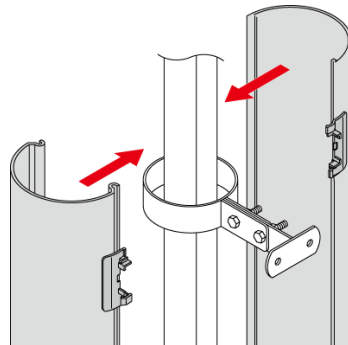
切り欠き加工を施した部分に、切り欠き補強部材 (PDK) を差し込んでください。

(ダクトのベース、カバー共)



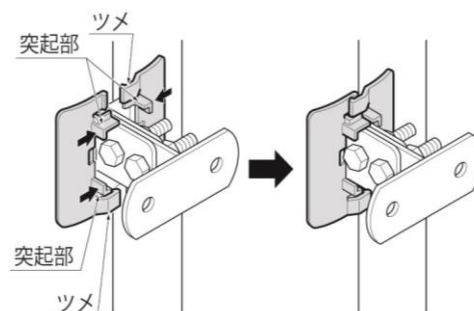
(6) ダクトの取り付け

支持金具を挟み込むようにダクトのベースとカバーを取り付けてください。



(7) 切り欠き補強部材のツメ嵌合

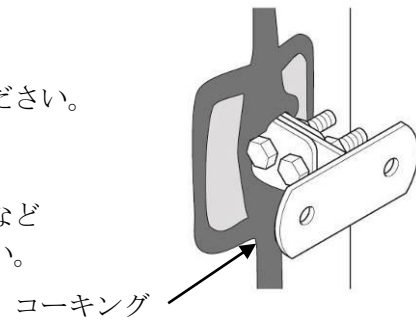
切り欠き補強部材 (PDK) の突起部を両側から押してツメをカン合させてください。



(8) コーキング処理

右図に示す位置のコーキング処理を怠りますと
屋内への雨水侵入の原因となりますので留意してください。

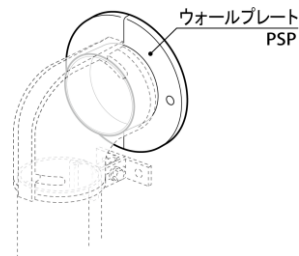
注意) 切り欠き補強部材は防水構造ではありません。
防水処理が必要な場合には接続部やカン合部など
必要箇所にはコーキング処理を施してください。



2-5. ウォールプレート(PSP) の施工手順

<用途>

ウォールプレート (PSP) にパーツ (エルボなど) を直接取り付けすることができます。
ウォールプレート (PWP-N) での施工に比べダクト浮かし高さの低い施工が可能です。



(1) 配管支持金具の選定目安

壁面からの浮かし高さに応じて、T字足を表-12 から選定してください。

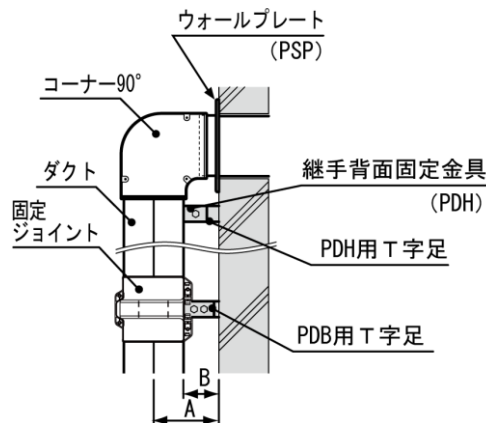


表-12 T字足選定表

(単位: mm)

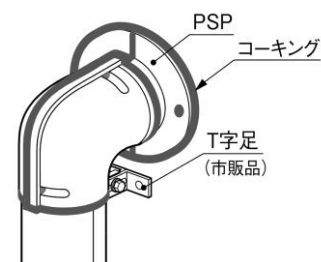
配管支持金具組み合わせ			PD ダクト施工状況		
配管バンド (鋼管用)	T 字足		PD ダクト サイズ	中心高さ A	浮かし高さ B
	固定ジョイント (PDB) 用	継手背面固定金具 (PDH) 用			
80A	50	30	PD-90	98	52
	60	40		110	64
	70	50		120	74
100A	50	30	PD-120	115	54
	60	40		127	66
	70	50		137	76

注意) ・ウォールプレート(PSP)にカン合するパーツは、継手背面固定金具 PDH または、継手固定金具 PDL で必ず固定してください。

- ・右図に示す位置のコーキング処理を怠りますと屋内への雨水侵入の原因となりますので留意してください。

注意) スリムダクト PD シリーズは防水構造ではありません。

防水処理が必要な場合には接続部やカン合部など必要箇所にはコーキング処理を施してください。



2-6. ダクト支持バンド(PDY) の施工手順

<用途>

固定ジョイント (PDB-N) を使用せず、スリムダクト PD 内に配管バンドを収納し、ダクトを支持する場合に使用してください。

注意) ・固定ジョイント (PDB-N) を使用する工法に比べて適合配管バンドのサイズが小さくなります。

- ・ダクト支持バンド (PDY) と組み合わせて使用する市販の T 字足・羽子板などは幅 25～32mm、配管バンドとの組み合わせ厚 10mm 以下のものを使用してください。

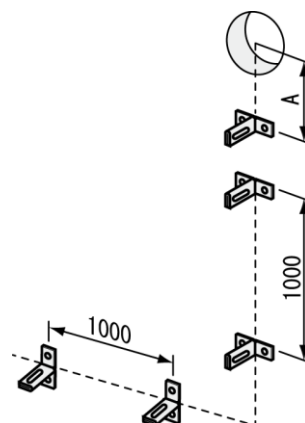
(1) 配管支持金具の設置

配管経路に沿って、表-13 に示す支持ピッチで T 字足などを設置します。

表-13 支持ピッチ (単位: mm)

縦引き配管		1000
横引き配管		1000
天吊り配管		1000
A*	PD-90	112
	PD-120	128
	PD-140	147

※ コーナー90° (PDE) + 継手背面固定金具 (PDH)
+ ウォールプレート (PWP-N) 使用時



注意) ダクトをダクト支持バンド(PDY)で支持する場合、ダクト1本に対して2箇所支持できるように設置してください。

(2) 配管バンドの選定

ダクト支持バンド(PDY)を使用する場合は、以下の適合配管バンドを使用してください。

表-14 適合ダクトサイズと収納可能被覆銅管サイズの見安表 (単位: mm)

適合ダクトサイズ	配管バンド (銅管用※)	最大銅管サイズ (液管×ガス管)		
		保温材厚 10×10 の場合	保温材厚 10×20 の場合	保温材厚 20×20 の場合
PD-90	50A 以下	9.52×15.88	—	—
PD-120	80A 以下	15.88×28.58	9.52×19.05	—
PD-140	100A 以下	19.05×38.10	19.05×31.75	9.52×19.05

※ 塩ビ管用なども使用できます。ただし、銅管用より外径が小さいサイズに限ります。

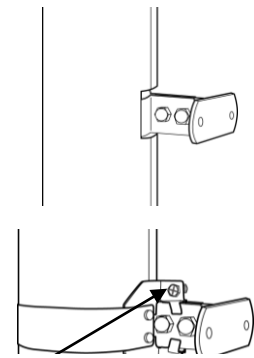
(3) ダクトの取り付け

配管後、使用する配管バンドに合わせ切り欠いたダクトを取り付けます。

(4) ダクト支持バンド(PDY)の取り付け

ダクト支持バンド(PDY)をダクトに巻き付け、付属の六角アプセットボルトで固定します。

注) ダクト支持のため、ダクト1本に対し2箇所施工してください。



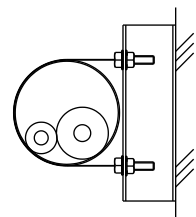
六角アプセットボルト

2-7. ダクト固定バンド (PDU) の施工手順

<用途>

ブラケット架台にスリムダクト PD を支持する場合に使用してください。

注意) 壁面横引き配管には使用できません。

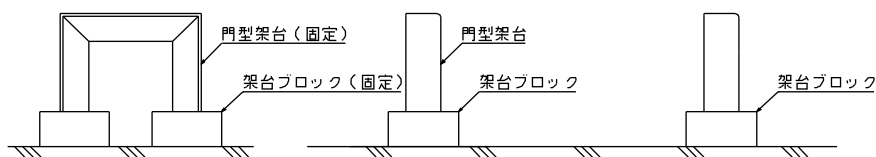


使用不可例

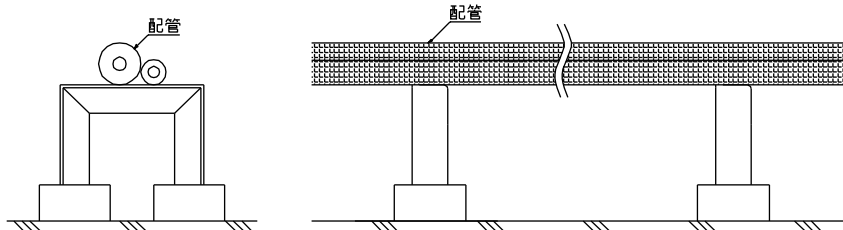
(1) 架台設置

配管架台を支持ピッチに合わせて設置し、固定してください。

注意) 架台は動かないように固定してください。

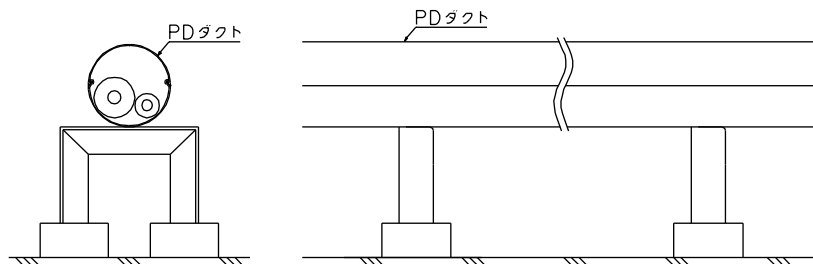


(2) 配管施工

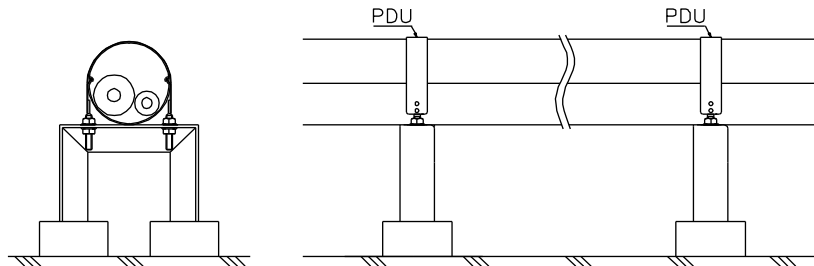


(3) ダクト取り付け

ダクト1本につき2点支持となるように配管にダクトを取り付けてください。



(4) ダクト固定バンド (PDU) 取り付け



注意) ・2点支持となるように、ダクト1本に対して2箇所ダクト固定バンドを取り付けてください。
 ・ダクト固定バンドを締め付け過ぎるとダクトが変形するため、締め過ぎに注意してください。

2-8. PSDS 変換継手(PSDR) の施工要領

<用途>

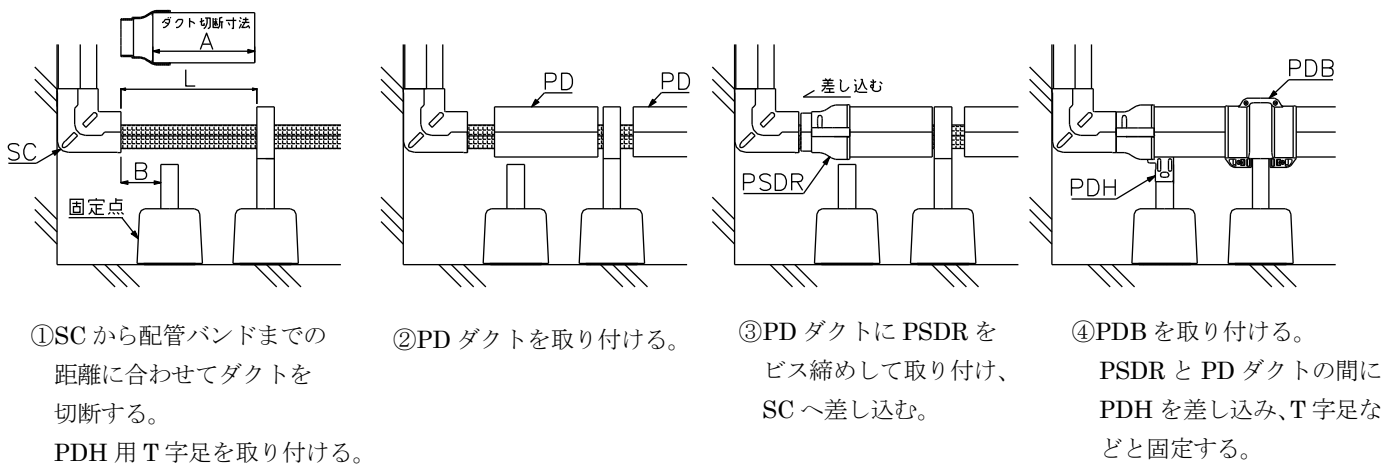
スリムダクト PD とスリムダクト SD を接続する場合に使用してください。

PD ダクトと SD パーツを接続します。変換サイズは、表-15 に示す通りです。

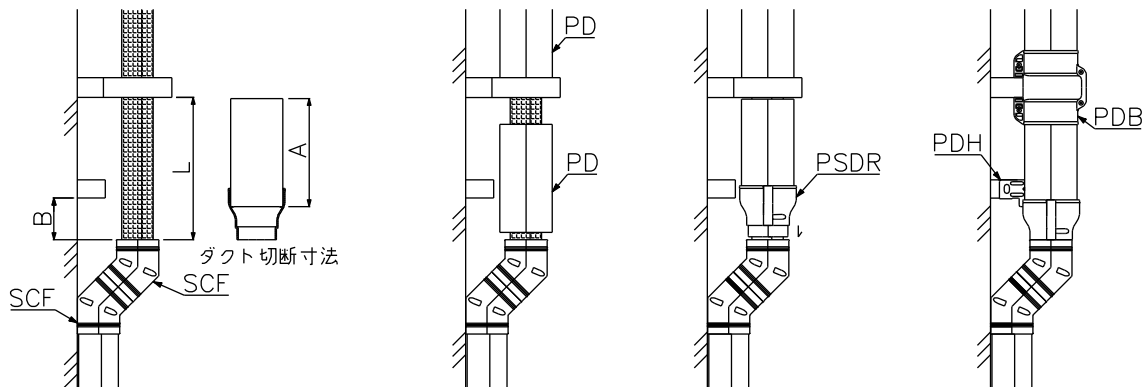
表-15 PSDS 変換継手の変換サイズ表

型 番	接続ダクトまたは接続パーツ	
	スリムダクト PD 側	スリムダクト SD 側
PSDR-90-100	PD-90 ダクト	SD-100 パーツ
PSDR-120-140	PD-120 ダクト	SD-140 パーツ

(1) スリムダクト SD パーツ「スリムコーナー立面 90°」(SC) と接続する場合



(2) スリムダクト SD パーツ「スリムコーナー立面 45°」(SCF) と接続する場合



- ①SCF から配管バンドまでの距離に合わせてダクトを切断する。
PDH 用 T 字足を取り付ける。
- ②PD ダクトを取り付ける。
- ③PD ダクトに PSDR をビス締めして取り付け、SCF へ差し込む。
- ④PDB を取り付ける。
PSDR と PD ダクトの間に PDH を差し込み、T 字足などと固定する。

表-16 ダクト切断寸法と T 字足位置寸法 (単位: mm)

型 番	ダクト切断寸法 A	T 字足位置寸法 B
PSDR-90-100	L 寸法-63	73
PSDR-120-140	L 寸法-68	78

注) PSDR は継手背面固定金具 PDH を用いて固定してください。

2-9. 異径アダプター(PDI) の施工要領

<用途>

異径アダプター (PDI) は、パーツカン合部でダクト径を 120→90、140→120 と変換するパーツです。

- ・接続できるパーツ : ジョイント (PDJ)、コーナー90° (PDE)、コーナー45° (PDF)、異径アダプター (PDI) ※ (T 型ジョイント PDT には同梱)
- ・接続できないパーツ : 固定ジョイント (PDB-N)、分岐継手カバー (PDJTN)、ブラケット固定ジョイント (PDBK)

※ 140 サイズから 90 サイズにダクト径を落とす場合は、継手パーツに PDI-140-120 と PDI-120-90 を接続することで、140 サイズから 90 サイズへの変換が可能です。

2-10. ブラケット固定ジョイント(PDBK)の施工手順

<用途>

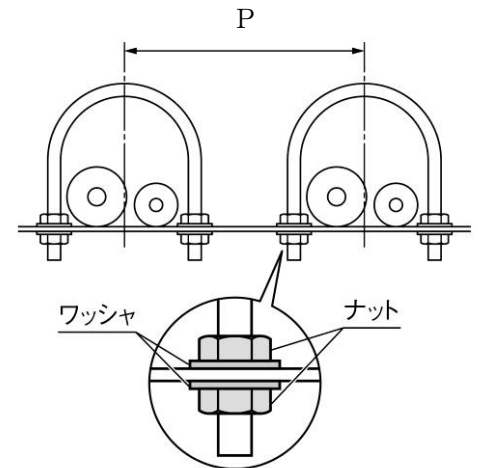
ブラケット架台にスリムダクト PD を固定する場合に使用してください。

(1) U 金具の設置

配管を U 金具でブラケット架台に振れ止め支持してください。

注意)

- ・ U 金具は、ナットを一番上まで上げて取り付けてください。
ナットを上まで上げずに途中の状態に取り付けると、固定ジョイントに収まりません。
- ・ U 金具は必ずナット、ワッシャーを取り付けて施工してください。
ワッシャーがないと、固定ジョイントの支持強度が低下します。
- ・ 横並び配管の U 金具施工ピッチを守って施工してください。
施工ピッチ以下で施工された場合は、固定ジョイントの取り付けができません。



表ー 1 7 U 金具施工ピッチ (単位: mm)

型 番	P (U 金具施工ピッチ)
PDBK-90	175 以上
PDBK-120	213 以上

※ワッシャーは、M10 サイズ (外径φ22) または
W3/8 サイズ (外径φ25) を使用してください。

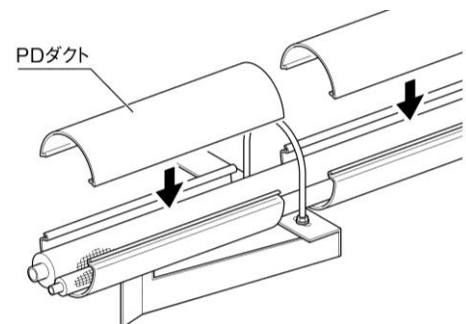
(2) ダクトの取り付け

配管支持ピッチ、U 金具品種に合わせてダクトを切断し、取り付けてください。
(必要に応じて金切のこぎりなどでダクトを切断してください。)

表ー 1 8 ダクト切断長さ (単位: mm)

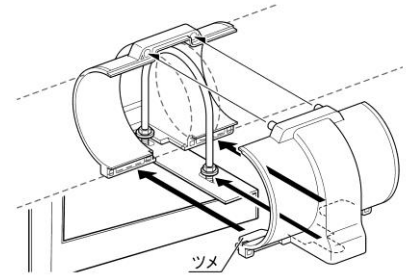
支持ピッチ	ダクト長さ L	
	U ボルト 使用時	U バンド 幅 25mm 使用時
1000	975~985	965~975
1500	1475~1485	1465~1475

注意) ダクトが短いと固定ジョイントの差込シロ
が少なくなり、ダクト抜けの原因となります。



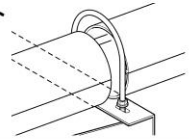
(3) 固定ジョイントの取り付け

- ① 配管およびダクトをブラケット架台から浮かせ、
U 金具のナットをゆるめて、ワッシャー下側に固定ジョイント底面を挿入し、ツメをカン合させて固定ジョイントを取り付けてください。

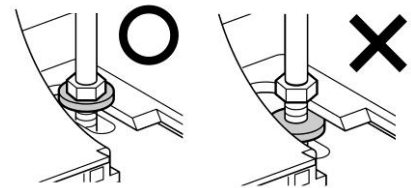


●横引き施工のポイント

ダクト端部を架台に乗せると施工しやすくなります。



注意) ・ワッシャーの上側に固定ジョイント底面が入ると、固定ジョイントが架台から浮いたり、固定ジョイントの支持強度が低下します。

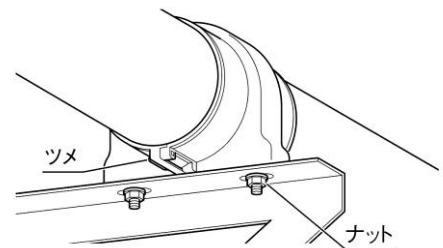


・U 金具の内側にダクトを入れないでください。

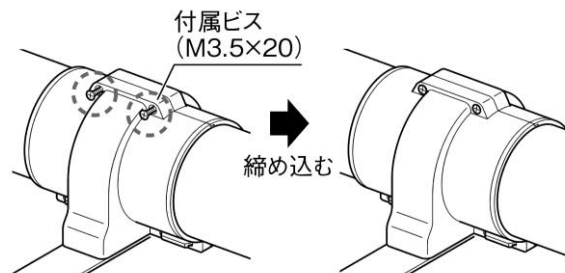
U 金具内側にダクトが入ると固定ジョイントの取り付けができなくなります。

- ② 固定ジョイント底面のツメをカン合させた状態を確認し、U 金具のナットを締め付けてください。

注意) ツメが外れた状態でナットを締め付けると固定ジョイントによるダクトの支持強度が得られなくなります。



- ③ 付属ビス (M3.5×20) を締め込み (2箇所)、しっかりとダクトを固定してください。



注意)

- ・架台 (三角ブラケットなど) で配管荷重を受ける支持点を設けて施工してください。
PD ダクトや U 金具が直接配管荷重を受けると変形するおそれがあります。
- ・配管を支持する U 金具はワッシャーを入れて施工してください。
- ・固定ジョイント底面の上側にワッシャーが乗るように固定してください。固定ジョイント底面の下側にワッシャーが入ると、架台から固定ジョイントが浮いたり、ナット締結部の支持強度が低下します。
- ・横並び配管の場合は U 金具の施工ピッチを守って施工してください。U 金具施工ピッチが短いと固定ジョイントの取り付けができなくなります。

- 曲げ配管の近傍に固定ジョイントを設置するように配管を行ってください。近傍に固定ジョイントを設置できない場合はコーナーパーツを継手固定金具で支持してください。曲げ配管から支持点が遠いとコーナーパーツの落ち込み、ダクト抜けの原因となります。
- 配管支持ピッチにあった長さのダクトを使用してください。ダクトが短いと固定ジョイントの差込シロが少なくなり、ダクトの抜けの原因となります。
- 過剰に締め付けると割れや変形が発生するおそれがあります。

以上